

経営体の概要

- ・所在地：富山県高岡市、小矢部市、射水市、南砺市
- ・経営体名：施設園芸生産性向上対策協議会
- ・栽培作物・作付面積：トマト62a、いちご46a
- ・会員数：20名（令和6年5月現在）

導入技術

○ハウス環境測定

- ・安価でクラウド料金や通信料金を発生させず、施設環境の測定・監視データを活用する技術。

○自動換気システム

- ・温度センサーにより自動でハウスの開閉を実施。
- ・ハウス開閉をスマホ等で遠隔操作が可能な技術。

導入経緯

- 近年、異常気象が頻発しており、天候の急変に対応した施設管理が必要であるが、施設環境条件の把握が十分でないため、病害が多発し減収する事例がみられている。
- ハウスの環境測定と生育調査をM農園が数年前より実践し、収量も安定してきており、協議会の他の生産者も先進農家の栽培管理技術を自らの栽培管理に反映するシステムの導入についての関心が高まっていた。
- 令和2年に環境測定と自動換気の実証効果を確認し、現在も有効に活用している。

取組の特徴・効果

- 環境測定データを活用して、自動換気を行う実証を3戸で行い、ハウスの適正管理に活用。測定のデータは1週間分をウイクリーレポート（図左）にとりまとめ、活用。あわせて生育調査を行い、各データを管理に活かす方法について勉強会を開催している。
- 3戸の実証農家は、お互いの環境データを見ることが可能で、先進農家の栽培管理が確認でき、栽培管理技術の高位平準化に寄与している。
- 自動換気を実証したハウスでは、換気に要する手動操作回数がゼロとなり（図右）省力化（1カ月あたり3.75時間削減）されている。
- 協議会員のトマト農家が令和4年度新たに環境測定システムと自動換気システムを導入するなど、取組みが拡大している。



写真1 環境測定センサー

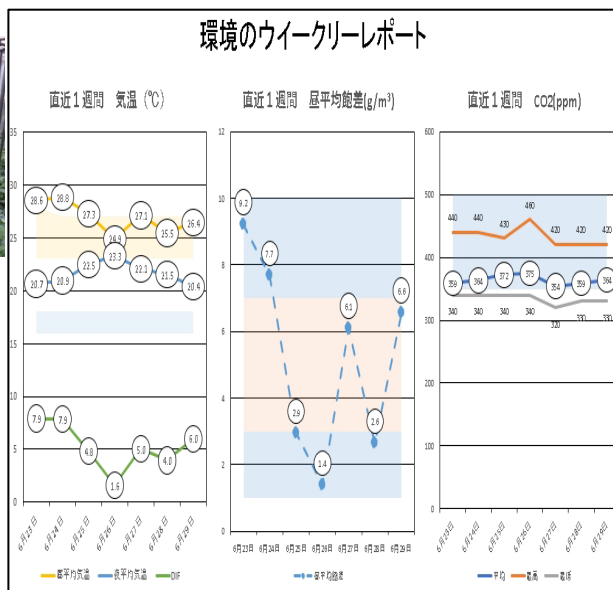


写真2 自動換気装置